

令和7年度鹿児島港中央港区開発推進協議会総会議事録

1 開催日時及び場所

(日時) 令和7年10月6日(月) 13:30～14:00

(場所) 鹿児島木材産業協同組合 事務所2階会議室

2 会員数及び出席者数

- ・ 会員数96人 (鹿児島市三号用地振興協議会37人、鹿児島機械金属工業団地協同組合12人、鹿児島木材産業協同組合23人、その他24人)
- ・ 出席者数67人

3 議事の内容

- ・ 定刻に至り、事務局担当者が開会を宣する。
- ・ 柴立会長より開会のあいさつがなされた。
- ・ 関係行政機関の来賓あいさつが行われた。
国土交通省鹿児島港湾・空港整備事務所 藤井所長
鹿児島市都市計画部都市計画課 木ノ上課長
- ・ 議長については、規約により会長が行うこととなっていることから、柴立会長が議長につき議事の審議に入る。
- ・ 第1号議題令和6年度事業実績及び第2号議題令和7年度事業計画について議長が説明を求めたので、事務局員は別紙資料により説明を行い了承された。
- ・ その他について
中央港区の整備にかかる県議会の主な議論について事務局員から説明がなされた。
以上で総会での審議を終了したので議長より閉会を宣した。

4 総会終了後、協議会の顧問である中島蔵人市議会議員、今給黎教子氏よりあいさつがなされた。

総会終了後、以下の講演会及が開催され、多くの会員が参加されました。

◎ 講演会 「鹿児島港中央港区の計画と現状について」

14:00 ～ 14:30

講師 鹿児島県港湾空港課 原村技術主幹兼鹿児島港整備係長

鹿児島港の概要、臨港道路(鴨池中央港区線)の整備、クルーズ船の受入環境整備、旧木材港区の埋立、最近の話題等について、スライドと資料を用いて講演していただきました。

◎ 質疑応答・要望等要旨 14:30～15:00

(Q1) コロナ前と今では、寄港するクルーズ船の客層に変化があるように思う。本県への経済効果はどのくらいあるのか。

(A) 中国の買方(爆買い)が変化する一方、欧米からの観光客が増えている。観光部局の話では22,000円/人、年間30～40億円程度の経済効果があったとしている。

(Q2) ①中央港区線の5年後の計画は。完成時期の延長はするのか。

②鴨池港から橋への取り付け、先線部分はどうなるのか。

③脇田川河口部、浚渫は必要ないのか。

(A) ①について、まずは、計画されている区間の予算をしっかりと確保していく。(国)

②について、現道を使い、市道に取り付ける計画である。

③について、今年度交付金を使い、暫定的に-3mで浚渫する計画。なお、岸壁部については-10mで浚渫済である。

(Q3) 鴨池港の取り付けに関連して、既設道から接続する部分(バスターミナル)の承諾は大丈夫か。

(A) 県交通政策課が窓口となり、県バス協会と協議しているところ。

(Q4) 黎明みなと大橋から三号用地へ降りた臨港道路が暗いので、水銀灯を設置してほしいと、前に要望したところ、交通量が一定量を超えないと設置できないとのことだった。5年後の開通を考えて設置できないのか。

(A) 要望としては承った。県内部でも共有したい。

(Q5) プレジャーボートの係留施設の整備見込みはどうか。

(A) 港湾計画には、マリーナは位置づけされている。

今後、民間活力等を使い、整備できないか検討してまいりたい。